

PCIトラブルシューティングとして我々のグループにはPCIのWireが断裂した場合どうするかという課題を与えられた。

実際の症例は慢性腎不全で長年の血液透析が行われている60歳代の症例である。LITAがLADにバイパスされており、LCXはCTOの状態である。ACSの状態ではCAGではRCA #2が責任病変であった。長年の透析症例であり高度の石灰化を認め、1.5 mmのRotablatorを使用した。その時点でRota wireの断裂が起き、断裂したwireはRCA #2-#3にかけて残ってしまった。マイクロカテーテルもwireの部位までは進んでいかない状況である。

我々のグループの解決策としては

- 1) PCI wire 2本を通過させ、2本のwireで断裂したwireをからめとる
- 2) スネアで回収する
- 3) ステントを留置し血管壁にwireを押しつける
- 4) 放置する

などがあがった。

実際にはスネアで無事に断裂したwireは回収できたとのことであった。

PCI時Wire断裂が起こりうる状況としてLADとD1にwireを進め、LADにCypherを留置した場合、側枝にいれたwireが抜けなくなり、無理に引っ張ったところwireが断裂してしまったという状況が考えられる。

その状況を想定した場合、ステント留置時に高圧では留置せず、必ずwireを抜き返した後拡張し直すことにより断裂を予防する、側枝にいれたwireにバルーンを入れていきステントと血管壁の隙間を作る、それでもwireが抜けなければ、側枝のバルーンを低圧で拡張する、実際に断裂してしまった場合には、回収を試みるが、無理なら放置をするなどの考えが出された。

PCIを行っていく場合、トラブルシューティングを考えておくことは起きてしまった場合にあわてずに冷静に対処できることになるので極めて重要なことであると痛感させられた。